



「絆」感謝祭

～Thanksgiving festival 50th anniversary JCI FUKUSHIMA～を終えて

50周年特別室 記念事業担当理事 渋谷 崇司



本年度、福島JCは創立50周年という年を迎えました。今から50年前に、「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下、福島JCは誕生し、そしてそれからの半世紀に亘り、脈々と歴史を紡いで参りました。その長い歴史には、諸先輩の想い、地域との繋がり、市民の協力、関係諸団体との連携等、さまざまな方々の協力を経て今に至りました。

また、2011年3月11日に発災しました東日本大震災が、未だ市民の心に苦難を与え続けている事は言うまでもありません。

9月15日(日)、雨の降っている中本年度の50周年記念事業担当理事として企画させて頂いた「絆」感謝祭は、正に福島JCの50年という歴史にご協力を頂いた方々への「感謝」と、そして震災以降全国から寄せて頂いた支援に対して感じた「絆」が、最大のテーマでございました。

屋外会場では「東日本うまいものまつり」と題し、関東地区協議会、東北地区協議会、ブロック協議会、そして県内青年会議所、地元飲食店の方々に依頼を掛け、50店舗という素晴らしい数の出店を頂戴する運びとなりました。これにより食事業としては最大規模の事業を展開させて頂きました。

また、屋内会場(ウィル福島)では「絆Music festival」という音楽イベントを開催させて頂きました。福島復興には先ず市民の笑顔と元気が必須であると考え、それを音楽の力で生み出せないものかと思い、実施させて頂きました。参加アーティストとしては、「あいのり」のテーマソングを歌った川嶋あいさん。元ヒステリックブルーのヴォーカルTamaさん。みやぎびっきの会から、小川もこさん、小柴大造さん、かの香織さん。そして、麻倉未稀さ

んにシングライクトーキングの佐藤竹善さん。さらには、岡本真夜さんと、総勢8名のアーティストに福島の復興へ想いを寄せて頂きました。

最後に、全ての想いを繋ぎ合わせた千足わらじについては、思わず胸が苦しくなるようなメッセージの中にはございました。避難された方の、「早く帰りたい。願わずにはいられない。」や、子どもの字で書かれた「外でいっぱいあそびたい」などは、我々が受け止めようとした想いの強さを、この事業を通して実感させて頂きました。皆様には心から感謝すると共に、担いとしてしっかりと作成いただいたわらじを羽黒神社へと奉納をさせて頂いた次第でございます。

50周年記念事業は、私の人生において本当に貴重な体験であったと思います。それは、事業を組み立てる事に、共に過ごした仲間とのかけがえのない友情や、そこに向かった挑戦の日々。そして、それが自分以外の人のためにという奉仕の心。私にとっては、一日開催の事業という単純なものではなく、JCという場で1年間学ばせて頂いたという感謝の想いでございます。

これから先も、福島JCは55周年、60周年と、一歩ずつ歩みを進めていきますが、いずれくるであろう100周年へ想いを馳せながら、この度の事業報告の結びとさせていただきます。

